女神達の暇つぶし

いわし軍港

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
女神達の暇つぶし

【Ｎコード】
Ｎ１８７６Ｖ

【作者名】
いわし軍港

【あらすじ】
気が弱く口下手で女顔の主人公近衛恭二（コノエ キョウジ）が女神の暇つぶしの為に異世界へ飛ばされるそんなお話

強制異世界行き（前書き）

誤字脱字などや矛盾が出ると思いますご指摘お願いします、
何かとご都合主義になると思います、あらかじめご了承下さい

強制異世界行き

こんにちは、僕は近衛恭二（コノエ キョウジ）高校二年生です、何処にでもいるような平凡な人間です、、成績も運動能力も中の上、少し口下手で友達も三人しかいない、そしてちょっとだけ世話を焼くのが好きな高校生、ただ顔が少し女のこ見たいだったり声変わりもまだですが、もし僕が何の問題も発生しなければ僕は普通に大学へ行き、普通に就職して普通に結婚して普通において死ぬそんな平淡な人生、そうなるはずだった……

あの日僕はいつもと同じように朝、学校に行く前にテレビを見ていた、ニュースで今日は雨だと聞き傘を持ち家から出かけた、その日もいつもと変わりない一日だった、友達と他愛ない話をして、授業を受けて、家に帰ろうとしていた、その日は他の友達が皆用事があるからと、先に帰っていった、僕は一人で帰路に着いた、家に向かって住宅街を歩いているといきなり雨が降ってきた、最初はポツポツと、そして直ぐに土砂降りの大雨になった、僕は持ってきた傘を開いた、住宅街を抜け自分の家を目指す、僕の家は少し町外れに在る、住宅街を抜けると周りには雨の音だけが響くここら一帯はとても開けた土地だ、所々に木が少しだけ生えてる、そのうちの一本に近づいた時に雷が気を直撃した、燃えながらこっちに倒れて来る木を避けようとしたが土がぬかるんで僕は転んでしまった、振り返り倒れて来る木をただ呆然と眺めることしか出来なかった、僕の意識はそこで途絶えた、

気がつくと真っ白な空間にいた、僕は確か気に押しつぶされて死んだはずではないのか、そう思ったがどうやらまだ生きているようだ、ここは何処だろうと辺りを見回しているとふと違和感を覚えた、なぜか自分の体が見えないのだ、自分は失明したのだろうか？　いや、今僕は立っている、もしあの後病院に運ばれたなら今は病院のベッドで寝ているのだろう、なのに僕は立っている、何かおかしい、いや、何もかもがおかしい、この真っ白な空間は何処だろうか、もし死後の世界だったらいやだな、家族も、友人も、人が一人も無い、音も風も何もかもが無い、こんな所に居るのは辛い、そんなことを思いながら辺りを見ていると白い空間は徐々に青みを帯び、視界の下のには草も見える、そして僕の目の前にとても五人の綺麗な女性がいた、

“ねぇ、三人目が来たよぉ”

“ほんとね、こんにちは坊や、私はアトロポス、あなたのところで言う女神よ、貴方をここへ呼んだのは私よ、よろしくね”

この人は何を言ってるんだろう？アトロポス？　女神？　それに僕をここへ呼んだっていったい？

“ええ、貴方をここへ呼んだのよ、雷に打たれたかその雷のせいで死んだんでしょ？”

ええ、確かにそうなんですが、って喋ってないのに何を言おうとしているか分かるんですか？

“もちろんよ、貴方が考えてること喋らずとも分かるわ、それに貴

方今肉体が無いじゃない、どうやって喋るのよ”

肉体が無い？

“そうよ、だって貴方は死んで魂だけがここに飛んできたの”

そうですか、僕はやっぱり死んでしまったんですか……

“ええ、殺してしまってごめんなさいね、でも、貴方の住んでいる地球以外のとある世界が今ある危機を迎えているんです、それを解決できるのは貴方だけなんです”

“まあ簡単に言えば私達が暇だから楽しませろと言うことだ”

さっきまで喋っていなかった一人が話し始めた

“ヘラ様！　そういう言い方は…”

“まあ良いじゃないか、どうせほんとの事なのだしな”

“まあ、そうなんですが、えと、坊やごめんね、今のが真実なんだ、悪いけどこれから異世界に旅立ってもらうよ、もう貴方は死んでいるし拒否することも出来ません”

えと、女神様がそう望むなら、いいですよ、遣り残した事も有りませんし、もう戻れませんし、

“いいねぇ、嬉しい事言ってくれるじゃないかそれではお前の新しい肉体はこのヘラが直々に作ってやるよ”

“ヘラ様ぁ、前の二人にはもう勇者や英雄になれるだけの素質やぁ体を与えたじゃないですかぁ”

“ふむ、エラトの言う通りだな、勇者が多すぎてもツマラン、どうする？　エラト、アトロポス、アテナ、アルテミス”

“私はヘラ様の好きなようにすればいいかと”

“私（わたくし）とアルテミスは勇者が多くともかまいませんわ”

“ええぇとねぇ、無難にぃそこそこの力をあげたらいいと思うなぁ、それかぁ、トロールにしちゃおうよぉ”

“そうだな、エラトの意見を採用だ、そこそこ強いからだとそこそこ強い魔力を与えよう、流石にこんな聞き分けのいいおもｔｙ、じゃ無い子供をトロールにするのはちょっとな、はぁ！”

ヘラと名乗る女性が腕をこっちに向けて一言叫ぶと光に包まれて僕に肉体が戻った、今までより少し軽い、顔は見えないからどうなってるか分からないけど

“ふふっ、なんだ、顔の心配か？　安心しろ死ぬ前のお前の顔だ、それにしてもまさかこんなに女っぽい顔立ちとはな”

「人の顔を笑わないでください！」

“ふふっ、これは悪かった、さていきなり本題に移ろう、これからお前は異世界に行ってもらう、その前に私達がお前に色々やろう、まずは私がお前を老い難くしてやろう”

“それではこのアトロポスは貴方に変わらぬ純粋な心を与えましょう”

“それでは私、アテナからは戦いの知識とこの木の棒をあげましょう”

“それじゃあね、このアルテミスは貴方に狩の知識をあげちゃうわ”

“それじゃあぁ、エラトはねぇ、貴方に……与えられるものが無いぃ”

“まぁ、エラトにそんな力ないしな、仕方ない私が代わりにお前に惚れられ易さを上げてやろう、くくっ、”

なんだろう、剣の握り方、弓の使い方、動物の追い込み方が頭に流れ込んでくる、

“さて、渡すべきものも渡したしお前には行ってもらうとするか、目の前の裂け目に入れ”

「はい、それではさようなら」

“ああ、達者でな”

“気をつけてねぇ”

そうして、近衛は空間の裂け目に入り消えて行った

裂け目から出るとそこは平原だった、遠くにお城が見える、やっぱり異世界なんだ、とりあえずあそこに向かおう、あれ？　すむところや食べ物はどうしよう、僕お金ないよ？　木の棒だって売れそうにないしどうしよう？

“さて、こいつはどれだけ楽しませてくれるのだろうかな？”

“まぁ、四年五年は楽しめるでしょう、”

“ヘラ様ぁ”

“どうした　エラト？”

“あの子ぉ、お金ないよぉ、何処に住むんだろぉ、何食べるんだろぉ”

“……しまった、前の二人は勇者や英雄として転生したから忘れておったわ”

“さっき四年五年は楽しめるといってしまいましたが、この分じゃあ2日三日で餓死でしょうかね”

“へましたな”

“ですね”

“まぁなんだ、くよくよする必要もないがな”

“他の二人が楽しませてくれるでしょうしね”

“あら？　四人目が来ましたわ”

“よし、あいつの事は忘れようか、さて、次だな”

強制異世界行き（後書き）

こんな感じです、まあ、まだＲ１５でもなければ、残酷な描写もないはず、多分

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1876v/

女神達の暇つぶし

2011年10月9日10時26分発行